

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 2 部門第 1 区分
【発行日】平成 19 年 8 月 2 日 (2007.8.2)

【公開番号】特開 2006-21150 (P2006-21150A)
【公開日】平成 18 年 1 月 26 日 (2006.1.26)
【年通号数】公開・登録公報 2006-004
【出願番号】特願 2004-202374 (P2004-202374)
【国際特許分類】

B 0 5 B 7/26 (2006.01)

【F I】
B 0 5 B 7/26

【手続補正書】
【提出日】平成 19 年 6 月 18 日 (2007.6.18)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項 1】

第 1 液剤が供給されるようになっており、下流側が塗装ガン側に連通された第 1 流路と、
第 2 液剤が供給されるようになっており、下流側が閉塞された第 2 流路と、
前記第 1 流路と前記第 2 流路とを連通させる連通路とを備え、
前記第 1 液剤と前記第 2 液剤が夫々対応する前記流路の上流端に供給されると、前記第 2 流路内に供給された前記第 2 液剤が前記連通路を通して前記第 1 流路内に流入し、前記第 1 流路内において前記第 1 液剤と前記第 2 液剤とが下流側へ流れつつ混合されて前記塗装ガン側へ送出されるようになっており、
前記第 1 液剤用の第 1 洗浄液と前記第 2 液剤用の第 2 洗浄液とが互いに異なり、且つ一方の洗浄液が他方の液剤と接触したときにその液剤が変質を来たす組合せである前記第 1 液剤と前記第 2 液剤の混合に用いられた二液混合装置を洗浄する方法であって、
前記第 1 流路に前記第 1 洗浄液を流通させることで、前記第 1 流路内の前記第 1 液剤を排出し、
前記第 1 流路に前記第 1 洗浄液が流通されている間、前記第 2 流路に前記第 2 液剤又は前記第 2 洗浄液を供給して前記第 2 流路内を加圧することで、前記第 1 流路内の第 1 液剤及び前記第 1 洗浄液が前記第 2 流路へ浸入するのを規制し、
前記第 1 流路内の前記第 1 洗浄液をエアパージにより排出した後、前記第 2 流路内に前記第 2 洗浄液を供給することで、前記第 2 流路内の前記第 2 液剤を排出し、
前記第 2 流路内の前記第 2 洗浄液をエアパージにより排出することを特徴とする二液混合装置の洗浄方法。

【手続補正 2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 0 6
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0 0 0 6】

上記の目的を達成するための手段として、請求項 1 の発明は、第 1 液剤が供給されるようになっており、下流側が塗装ガン側に連通された第 1 流路と、第 2 液剤が供給されるようになっており、下流側が閉塞された第 2 流路と、前記第 1 流路と前記第 2 流路とを連通

させる連通路とを備え、前記第 1 液剤と前記第 2 液剤が夫々対応する前記流路の上流端に供給されると、前記第 2 流路内に供給された前記第 2 液剤が前記連通路を通過して前記第 1 流路内に流入し、前記第 1 流路内において前記第 1 液剤と前記第 2 液剤とが下流側へ流れつつ混合されて前記塗装ガン側へ送出されるようになっており、前記第 1 液剤用の第 1 洗浄液と前記第 2 液剤用の第 2 洗浄液とが互いに異なり、且つ一方の洗浄液が他方の液剤と接触したときにその液剤が変質を来す組合せである前記第 1 液剤と前記第 2 液剤の混合に用いられた二液混合装置を洗浄する方法であって、前記第 1 流路に前記第 1 洗浄液を流通させることで、前記第 1 流路内の前記第 1 液剤を排出し、前記第 1 流路に前記第 1 洗浄液が流通されている間、前記第 2 流路に前記第 2 液剤又は前記第 2 洗浄液を供給して前記第 2 流路内を加圧することで、前記第 1 流路内の第 1 液剤及び前記第 1 洗浄液が前記第 2 流路へ浸入するのを規制し、前記第 1 流路内の前記第 1 洗浄液をエアパージにより排出した後、前記第 2 流路内に前記第 2 洗浄液を供給することで、前記第 2 流路内の前記第 2 液剤を排出し、前記第 2 流路内の前記第 2 洗浄液をエアパージにより排出するところに特徴を有する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

上述のように本実施形態においては、主剤流路 25 内の洗浄を行っている間、硬化剤流路 23 内を加圧して主剤流路 25 内の水 W a が硬化剤流路 23 内に浸入しないようにしているので、硬化剤流路 23 内において硬化剤 L b と水 W a が接触することがなく、硬化剤流路 23 内で硬化剤 L b が変質することに起因する不具合を回避することができる。